

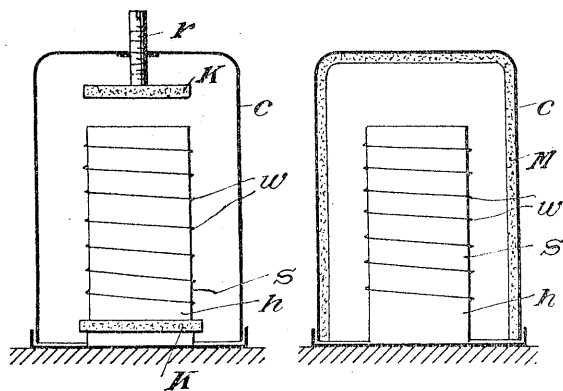
# 特

# 許

# 欄

## 高周波線輪(特許第一一〇〇二五號)

ラジオ受信機に於ける様な高周波回路の線輪として一般に圓錐形空心線輪を用ゐ、外部への漏洩磁界を遮蔽する爲に銅筒を設けてゐる。然るに此の遮蔽の渦流損失によつて爲線輪損失増加し、その他電氣的性質を劣化する。本發明は斯かる點を改良したものである。第一圖で線輪(S)は絶縁物製の圓錐(h)上に捲かれた



第一圖

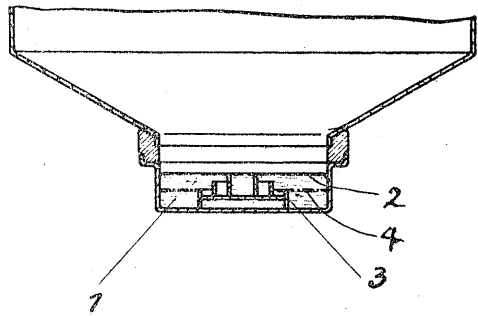
第二圖

捲線(w)から成り銅筒(c)中に收められる。然るに此の儘では銅筒中の損失が大きいから磁性體(k)を挿入する。此の磁性體は壓粉心の様に磁性粒子を絶縁物と一緒に固めた様なものが適し、圓錐の上下端に置いた丈でも有効である。此の磁性體によつて磁界を制限し銅筒中に入る量を著しく減少させ、従つて銅筒に於ける損失を低下させるのである。但し磁性體中に新たに大きな損失を生じる様では意味を無さないから磁性體の材料は適當に選定しなければならない。磁性體の小片を挿置する代りに第二圖の様に銅筒内面を磁性材料(M)で被覆するも良い。此の被覆は可塑性絶縁材中に鐵粉を混じて作る事が出来る。

## 水銀蒸氣整流器(特許第一一〇四七八號)

此の發明は水銀蒸氣整流器の水銀陰極に於ける弧光基點を制限し、無駄な水銀蒸發を減少させるものであ

る。第三圖の(1)は水銀整流器の陰極水銀で内部に弧光基點となるべき導電性の固體陰極體(3)が設けられ



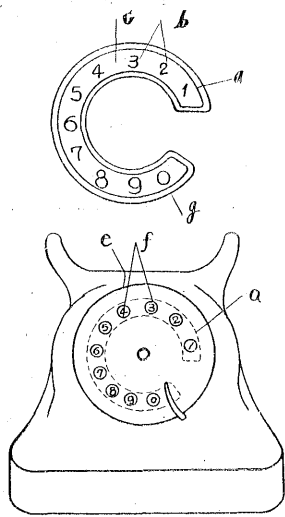
第三圖

る。之は例へば中空圓錐形のもので、内部に設けられたもの程高さが高くなつて居る。擬整流器動作前水銀面は(2)にあつたとする。此の時陰極體は最内部の最長のものの縁部が水銀面から僅かに凸出してゐる。整流器が動作を開始すると陰極體の前記の縁部が弧光基點となり、弧光基點が水銀面上を移動するのを防ぐ。負荷が漸次増大し水銀蒸發量が増すと、水銀面は(4)に低下し、陰極體の第二の圓錐の縁部、即ち最内部のものより面積の廣いものが水銀面上に現はれ、弧光基點は容易に此の部分に移る。此の様に於ては負荷の増大と共に弧光基點の面積も大となり、大電流の通過に適應し、整流器の動作を安定にする。本發明に於ては弧光基點が容易に其の時の狀況に適應する事が重要である。従つて陰極體(3)の形狀も圖示以外に種々に變形する事が出来るので、例へば圓錐體等を適當に利用する事が出来る。

## 自動交換電話機の文字板

(登録實用新案第二〇五一八二號)

自動式電話機のダイヤルの數字は暗所では見えないので使用上不便がある。それで數字を夜光塗料で書く事等が考へられて居るが満足でない。此の考案は斯様な所に適するもので第四圖の(a)は透明或は半透明



第四圖

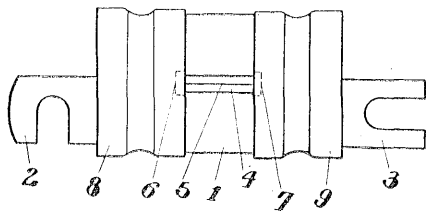
材料、例へばセルロイド、セロファン等から成る環狀の文字板で、裏面に (b) の様に數字の形を残して夜光塗料 (c) を一面に塗布する。此の文字板 (a) は圖の様に電話機のダイヤルに取付けられ、その數字は廻轉盤 (e) の指孔 (f) から見る事が出来る。(g) は黒其の他適當に着色した薄板で、數字を見易い様にしたものである。本考案の文字板は夜光塗料の塗布面積が大で且塗料が裏面に施してあるから、暗所でも特によく光り、また剝離する事が無い利點がある。

**鎔斷表示装置を具ふる密閉可鎔遮斷器**

(登録實用新案第二〇五一八三號)

密閉可鎔遮斷器は鎔斷したか否か外部から直ちに知る事が出来ないから、何等かの表示装置を附せば便利であるが、密閉可鎔遮斷器の如何なる構造及び、如何なる場所に取付けられる時にも、満足に使用される表示装置を

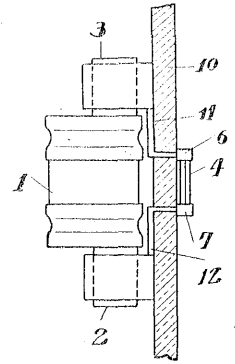
得る事は困難である。本考案は之を解決した



第五圖

もので、密閉可鎔遮斷器の鎔斷に次いで鎔斷する可鎔片を透明筒内に挿置し、之を密閉可鎔遮斷器の外部に取付ける様にした。第五圖に於て (1) は密閉可鎔片筒で、端子 (2)(3) により所要の場所に取付けられる。(4) は透明な表示筒で内部に可鎔片 (5) を收め

る。表示筒は其の金屬帽體 (6) (7) を、密閉可鎔片筒 (1) の端蓋 (8)(9) により挾持するか或は鎔接する等により、密閉可鎔遮斷器に保持される。密閉可鎔片が鎔斷すれば、當然表示筒の可鎔片 (5) が鎔斷するから、密閉可鎔片の鎔斷を表示する事となる。表示筒は第六圖の



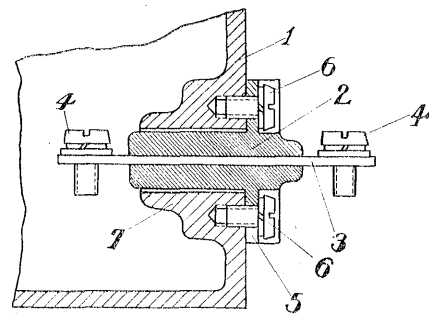
第六圖

(4) の様に特別な場所を取付ける事も出来る。(10) は配電盤で、裏面に密閉可鎔片筒 (1) が固定され、前面に表示筒が取付けられる。表示筒の端子 (6)(7) は、線 (11)(12) により密閉可鎔片筒の端蓋に接続される。

**耐爆氣型電機器の接續導體導出装置**

(登録實用新案第二〇五八六八號)

爆發性瓦斯中で使用する電機器では、接續導體を氣密に引出さねばならないので引出部の構造が面倒である。本考案は簡単な構造で接續導體の氣密引出を可能にした。第七圖の (1) は氣密を必要とする電機器の壁で、肥厚部 (7) を有し、之に導體導出装置を構成する鞘狀の絶緣體 (2) が嵌装される。絶緣體は鈎部 (5) を有し、螺子 (6) により壁 (1) に固定される。(3) は絶緣體中に氣密に埋入された接續導體で、(4) は其の端子である。此の考案によると、絶緣體と壁との接觸面積が甚だ多いから、セメントの様な結合材を使用し



第七圖

なくても充分な氣密性を保たさせ且導出部の取付け取外しが簡単に行はれる利點がある。



\*本誌に記載されている会社名および製品名は、それぞれの会社が所有する  
商標または登録商標である場合があります。